



MUSASHINO Vol.118 *for* TOMORROW



巻頭

一本の道

原田マハ(小説家・キュレーター)

特別座談会 第1部

江古田新キャンパス
実現までの道のり

表紙：リチャード・メイン(指揮)

July 2016
vol.118

一本の道

原田マハ（小説家・キュレーター）



©森 栄喜

デビュー作の『カフーを待ちわびて』、山本周五郎賞受賞の『楽園のカンヴァス』を始め、数々の話題作を世に送り出してきた人気作家の原田マハさん。その経歴は、ふたつの大学を卒業し、通訳学校でも勉強、そして美術館勤務、アートコンサルタント、

キュレーター、カルチャーライターを経て作家に転身…と、まるで小説を地で行くようです。ご自身の人生のキーワードを「度胸と直感」と語る原田さんが、夢とまっすぐ向き合うことの大切さについてメッセージをとどけてくださいました。

年、南仏で91歳の長寿をまっとうするまで、変幻自在に作風を変え、西洋美術史に絵画革命の灯火を点し、一石を——というか二石も三石も投げ続けた不世出のアーティストである。

アートにまったく興味のない人でも、「なんだかよくわからない絵を描く画家」とか「名前だけは知っている」と、なんとなく認識させてしまうほどのインパクトを持ったアーティストである。世界的認知度の高さはレオナルド・ダ・ヴィンチと双璧ではないかと私は思っている。そして、「ゲルニカ」と聞いてピンとこない人であっても、作品の図版を見れば「どこかで見たことがある」と思うのではないだろうか。

私は、当然、ピカソに会ったことはない。しかしながら、自分の人生を導いてくれたその人こそはピカソである、と思っている。

私は、実は10歳のときに「マイ・

原田マハ *Maha Harada*

1962年、東京都小平市生まれ。関西学院大学文学部日本文学科および早稲田大学第二文学部美術史科卒業。馬里呂美術館、伊藤忠商事を経て、森ビル森美術館設立準備室在籍時、ニューヨーク近代美術館に派遣され同館にて勤務。2005年『カフーを待ちわびて』で第1回日本ラブストーリー大賞を受賞しデビュー。2012年に発表したアートミステリ『楽園のカンヴァス』は第25回山本周五郎賞、第5回R-40本屋さん大賞、TBS系「王様のブランチ」BOOKアワードを受賞するなど話題を呼び、ベストセラーに。その他の作品に『ロマンシエ』『モダン』『異邦人(いりびと)』『ジヴェルニーの食卓』などがある。

マイ・ファースト ピカソ

この春、パブロ・ピカソの傑作にして世紀の問題作「ゲルニカ」を巡る物語「暗幕のゲルニカ」（新潮社刊）を上梓した。ひと言では言い表せないほどの思いと汗と涙と決意が詰め込まれた一作である。

ピカソといえば、1880年、スペインの地方都市マラガに生まれ、1972

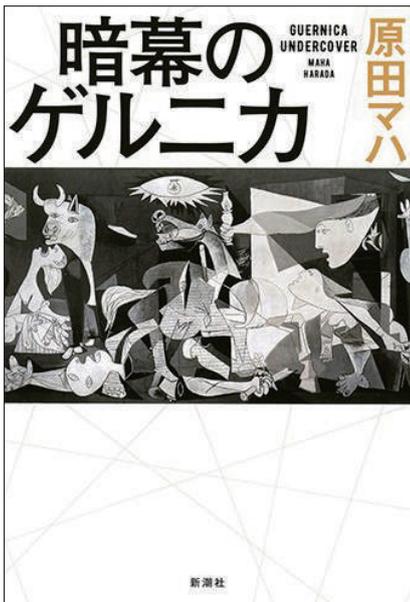
ファースト・ピカソ」を体験している。

父に連れられて、倉敷にある名門美術館、大原美術館を初めて訪問した。当時、父は美術全集などのセールスマンをしていたのだが、岡山に単身赴任中であつた。そして、夏休みに遊びにやってきた娘に「岡山にはすごい美術館があるんだぞ」と、まるで自分が美術館のオーナーにでもなったかのごとく、自慢げに教えてくれた。私が絵を描くのも見るのも大好きなことを、父はよく知っていたからだ。

このとき父が気を利かせて私を大原美術館に連れていってくれなかったら……あるいは「暗幕のゲルニカ」は誕生しなかったかもしれない、と本気で思う。

大原美術館に足を一歩踏み入れて、私は大興奮した。ピエール・ピュヴィス・ド・シャヴァンヌ、エル・グレコ、クロード・モネ……すばらしい画家たちの名画の数々が少女の私を迎えてくれた。

そして、私は、一枚の絵の前で、ふと足を止めた。その絵こそが、ピカソの作品「鳥籠」（1925年）であつた。



『暗幕のゲルニカ』
原田マハ／著
新潮社刊

作品をひと目見た瞬間の私の印象は「何これ?!」であつた。タイトルを見る限り、どうやら鳥かごとその中に入っている鳥……を描いているようだが、私の目には「なんだかわからんへたくそな絵」としか映らなかつた。それどころか、図画工作が得意な小学3年生の私は「あたしのほうがうまい」とまで思った。まったく子供というのは勝気な生き物である。世界のピカソを相手に「自分のほうがうまい」と完全に上から目線。のみならず、それからしばらくのあいだ、ピカソをライバル視していたのだから（そんな子供はそうそういないはずだが）。

ピカソの牽引力

それから10年ほど経過して、私は第二の「ピカソ体験」をすることになる。

21歳の誕生日のこと、関西学院大学3年生だつた私は、ちょうど京都市美術館で「ピカソ展」を開催していることを知り、「我が宿命のライバルの全容を知るチャンス」とばかりに、勇んで出かけていった。

会場に入るまでは、ピカソは確かに私のライバルだつた。ところが、会場を出てきたとき、ピカソは私の人生を導いてくれる「導師」になつていった。

展覧会には、若きピカソが画家として大成することを志し、バルセロナからパリへと出向いたあと、青を基調とした一連の作品を描いた「青の時代」の作品が何点か展示されていたのだが、私はこれに完全にノックアウトされてしまった。

私とさほど変わらない年齢で、こ

れほどまでに哀調漂う深い心情の作品を描くとは……天才じゃないかと、かなり遅ればせながら気がついたのである。

その日から、私はピカソを追いかけて始めた。「ピカソ」が題名に含まれていれば、その展覧会がどこで開催しようと思にいったし、ピカソ関連の書籍もできる限り読んだ。社会人になってからは、職場のデスクの目の前の壁に、雑誌に載っていた24歳のピカソのポートレート写真の切り抜きを貼っていた（後年、このポートレート写真のポストカードをみつけ、いまなお私の書斎のデスクの前の壁に貼つてある）。

学生時代、将来はなんらかのクリエイティブな仕事に就きたいと願っていた私は、いつの日か自分のクリエイション——マンガか絵か小説か論文か展覧会か、それが何かはわからないものの——に、ピカソを取り込みたいという夢を抱いていた。

ピカソが主人公として登場する「小説」を書こうとフォーカスを定めたのは、40歳を過ぎてからだだったが、それもこれも「いつかピカソをなんとかしたい」と思い続けていたからだ。

私の人生は、こうしてピカソに導かれて、いまに至る——というわけだ。

私の人生にピカソがいなかったら……と思うと、ちょっとこわいくらいである。

ピカソがいなかったら、ここまでアートに興味を持たなかつただろう。そして小説を書こうとも思わなかつただろう。小説家として仕事をすることもなく、つまり本稿を書くこともなかつただろう。などと考えれば考えるほど、ピカソの偉大さにひれ伏したくなってしまう。

そしてついに、真っ向ピカソに挑戦した小説「暗幕のゲルニカ」を書き

上げた。

大原美術館で「鳥籠」を見た少女時代にピカソを意識し始めて、ライバルから導師になり、憧れて追いかけて、気がついたらなんと40年以上が経っていた。

ピカソの牽引力と自分のしつこさ、その両方に、われながら驚いている。

少年ピカソと 鳩と広場

「暗幕のゲルニカ」を書き始めるにあたって、私はアーティストの原風景を旅する取材を敢行した。2012年のことである。

私はいつも、小説を書き始めるまえに構想を固め、緻密な取材を行う。取材なくして書き始めることはほと

んどない。取材が私の小説の根幹となり、物語を支える大切な基礎となっているのだ。

アート関係の小説を書くときは、その主人公となるアーティストが実在の人物であれば、そのアーティストの足跡をたどり、彼・彼女が体験したのと同じ原風景を自分自身で体験してみる。これがあるのとないのでは主人公となるアーティストへの思いが断然変わってくる。だから、私にとっては、小説を書き始めるまえのとても大切な「儀式」のようなものだ。

ピカソの原風景は、もちろんスペインにある。なかでも、ピカソが生まれた街・マラガには、それまで行ったことがなかったので、ぜひ訪問してみたかった。天才画家を生み出し、育んだ風景とは、どんなふうだったのだろうか。

マラガはスペインの南部、アルボ

ラン海に面した港町である。気候はからりとしていて、緑陰が濃い影を落としている。街角のカフェやバルは風通しよく開け放たれていて、人々はテーブルに群れて夜遅くまでお酒を飲み交わし、楽しげに談笑している。

ピカソの生家は街の観光名所になっていて、メルセド広場という公園の前に建っているアパートだった。特に高級アパートという感じではなく、ごく一般的な集合住宅である。ここの2階で天才は産声を上げた。

いまは1階が博物館の入り口になっていて、2階はピカソが暮らしていた当時の状態に復元されている。やはり特別になんという事のない室内で、どちらかというと質素な感じである。ピカソの父親は美術教師だったということだから、さほど裕福な家庭ではなかったのだろう。

❖❖❖❖❖ 音楽学部新人演奏会 ~平成27年度卒業生による~ ❖❖❖❖❖

平成28年4月18日 トッパンホール



松岩沙季(マリンバ)



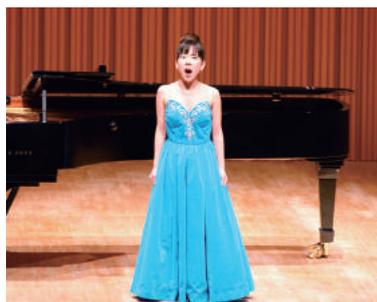
若林俊介(トランペット)



山本己太郎(ピアノ)



原 日向子(ハープ)



高橋彩音(ソプラノ)



佐藤祐実(フルート)



犬飼まお(ピアノ)

ちなみにピカソの父は、息子の尋常ならざる画才にいち早く気づき、「この子はいつか私をやすやすと超えていけよう」と戦慄したという。

その結果、画家をやめてしまったとも……伝説には尾びれ背びれが付きものだから真実かどうかはわからないものの、ピカソが年端もいかぬ子

供の頃に描いた鳩の絵などを見ると、父の戦慄も理解できる気がする……ほんとうに「うますぎる」のだ。

そして私は、ピカソの生家よりも、むしろその目の前にある広場のほうに興味を持った。

明るい日差しがさんさんと降り注ぐ正方形の広場、その中心にある噴水の周りに子供たちが集まってはしゃいでいた。お年寄りがゆっくりとそのそばを通り過ぎ、鳩が群れて飛び交っていた。

この鳩こそ、少年ピカソが日々親しんだ動物である。ピカソは鳩の姿を紙に写し取り、やがてそれを平和のシンボルに定めて、生涯にわたって数多くの作品に登場させた。

もしも少年ピカソの家の前にこの広場がなかったら。もしも鳩に親しむ日々がなかったら。あるいはピカソの天性は現れずに終わったのかもしれない。とすれば、私もまたピカソ



▲ アルボラン海 (地中海) に面したマラガの街並み

❖ ❖ ❖ ❖ 大学院修士課程新人演奏会 ～平成27年度修了生による～ ❖ ❖ ❖ ❖

平成28年5月9日 トッパンホール



近見りり子(ピアノ)



大塚さゆり(フルート)



矢沢まどか(ヴァイオリン)



津久井瑛子(ソプラノ)



福井敬介(ピアノ)



▲メルセド広場のピカソ像。後ろに見える建物はピカソの生家。現在は博物館になっている。



に出会うことはなく、小説を書くこともなかったかもしれない。

そう思えば、この広場に感謝したい気持ちになった。

午後の日差しが降り注ぐ中、子供

たちに混じって、鳩を追いかけてみた。少年ピカソのまぼろしと一緒に。とても幸せなひとときであった。

ひらめきを 持続させるために

長い長い時間を経て、ピカソを取り込んだ創作をしてみたい、という学生時代に得たひらめきが、よう

やく一編の小説にまとまったとき、あきらめなくてよかった、と心から思った。

しかしながら、なんらかのひらめきがあったとしても、時間の経過とともに忘れてしまったり、ひらめきの瞬間の輝きが失せてしまったりするものだ。それを持続するにはどうしたらよいのだろうか。

やりたいことがたくさんあったり、やたらひらめいたり、あれもこれもと夢みるのが学生の特権である。それはもちろん、すばらしいことである。が、あまり多くを追いかけず、できる限り絞り込んで、細く長く追いつける、というのが、結果的には夢やひらめきを実現するには近道ではないだろうか。

私も学生時代には、クリエイティブなことならなんでもやってみたかった。が、結果的には自分の進むべき道をアートと小説に絞り込み、最後にはこのふたつをひとつにて、一本の道を見出した。

潔く定まった一本の道。ピカソやほかのアーティストが、これからも導いてくれるのではないかと信じている。

音楽の万華鏡 35

論文は言葉による演奏

音楽大学で演奏実技を専攻する人たちも、大学院修士課程に進むと修士論文を提出して審査に通ることが修了要件に課せられます。武蔵野音楽大学大学院のヴィルトゥオーソコースには修士論文は課せられていませんが、研究演奏で演奏する曲目の解説を書くことが課題となっています。

演奏する作品を言葉で論じ、それが聴衆に読まれるのは貴重な機会ですが、演奏す

るのに比べて文章を書くのは苦手、と思う人たちは少なくないのではないのでしょうか。各自が専攻する楽器や声は、各自の身体の一部と化した表現の媒体であっても、言葉は、楽器や声に比べて各自の表現にとって身近な存在であるとは必ずしも言えないのが現状ではないのでしょうか。執筆者に選ばれ起こされた言葉が他の言葉と繋がられて、意味のある軌跡を残していくには時間がかかるのではないのでしょうか。ともすると、記述されるのは、情報、事実で主に占められる傾向にあるのではないのでしょうか。

楽器を日々さらって演奏訓練するように、日々ウォーミングアップとトレーニングをすれば、言葉も各自の表現媒体にな

ると思われます。たとえば、修士論文で対象とする作曲家の作品、あるいはその作曲家と同時代の作曲家の作品につき、音楽表現上の特徴と思われるものを、1曲ごとに200字程度で、あるいは200字以上の無理のない分量で記述するのを日々の日課とすれば、それぞれの作品の表現上の個性が複数の作品間で照らし出されます。研究対象とする1作品のみを凝視しても、作品が心開いてくれるとは限りません。複数の音楽作品の表現方法を把握した、論文・解説の執筆者の受け皿が豊かであるほどに、そこに受け入れられる作品も、その多様な局面が見過ごされることはない、と思われます。

榎崎洋子(本学音楽学教授)



特別座談会
第1部

LOOK at
REPORT ⑨ TOMORROW
江古田新キャンパスプロジェクト

江古田新キャンパス実現までの道のり

来春いよいよオープンする、武蔵野音楽学園の江古田新キャンパス。竣工まで半年あまり、当初の予定通り工事は順調に進んでいます。ベートーヴェンホールを除く、江古田キャンパスの全てを建て替えるという大規模プロジェクトの設計・施工を担っているのは、東京スカイツリーや六本木ヒルズ森タワーを始め、数々のランドマークを手掛けてきた日本を代表するスーパーゼネコンの大林組。今回は、同社各部門のスペシャリストの皆さんにお集まりいただき、本学のプロジェクトリーダーである福井直昭副学長の進行に



福井直昭 Naoki Fukui

武蔵野音楽大学 副学長
企画部長・教授(ピアノ)

より、現在までの過程や苦労談、また新キャンパスの特徴など、それぞれのお立場から語っていただきました。(2016年5月19日実施／本座談会の模様は2号にわたりお届けします)

精鋭による 大林組のチーム編成

福井 お忙しいなかお集まりいただき、ありがとうございます。本日は新キャンパスについてのお話を伺いますが、各施設の概要については本学ホームページやパンフレット等で既に紹介していますので、今回は設計を中心にプロジェクトの過程にスポットを当てて話を進めていきたいと思います。では、まず最初に今回のプロジェクトにおける大林組のチーム編成について、設計部の方からお聞かせください。

山本 例えば事務所ビルや工場だと、中の機能面はそれほど複雑ではありません。規模に対して少人数で対応できる。ところが今回は音楽大学のキャンパスということで、教育施設であるだけでなく、音響的にも様々な性能が求められました。またレッスン室・練習室ほか部屋数も



山本朋生 Tomoo Yamamoto

株式会社大林組
本社 設計本部 本部長室 室長

多いし、図書館、博物館、キャンパスレストラン、展望ラウンジなどもある。さらに、本格的なコンサートホール、リハーサルホールの新築に加え、ベートーヴェンホールの改修もありますから、多彩なスペシャリストが集団的に集まる必要がありました。

福井 様々な分野の精鋭が集まったということですね。現場の工事スタッフに関してはいかがでしょう。

今井 今回のプロジェクトは全体工期が22ヵ月、そのうち最初の半年くらいは解体工事でした。現場を改修工区、1工区、2工区と3ブロックに分け、それぞれのリーダーの下で施工



安藤雅敏 Masatoshi Ando

株式会社大林組
本社 設計本部 建築設計第二部 課長

を進めています。工事事務所は、今日現在でスタッフ38人、現場で働く職人は380から400人くらいと、かなりの大所帯になっています。今後、11月、12月あたりの最盛期には現場は600から650人になると思います。

福井 来年4月武蔵野の女子学生達が戻る前に、江古田の街はおじさんたちで活気づくということですね(笑)。

小川 現場も優秀な人間が集まっていると感じています。我々が設計図に描いていることに対し、もう1歩踏み込んで考え、提案をくれます。

福井 次に大林組と大学とのコラボレーションについて。設計の定例会議を数多く開いてきました。今もかなりの頻度で継続開催中ですが。

山本 長時間に及ぶ全体設計定例会議は、現在までで122回です。この他、図書館、博物館、音響などの各分



▲ 現場全景 空撮 (平成28年4月25日)

科会などを加えると300回以上はやっているのではないのでしょうか。これほどまでに、クライアントと打合せをさせていただきながら進めるプロジェクトはなかなかありません。

福井 プロジェクトを立ち上げた時は、まさかこんなに打ち合わせが必要になるとは思ってもいませんでした…。それは大林組様も同じでしょうが(笑)。これまでに打ち合わせに費やした時間は、トータルで1,500時間くらいになるのではないのでしょうか。さらに、武蔵野内部でも検討会議をかなり重ねてきたので、それを含めたら何千時間かは使っているかなど。私自身、沢山の本を読んで建築用語から始まり様々な勉強をさせていただきました。これも現在継続中ですが(笑)。

山本 副学長が、かなり勉強されておられるのは、充分伝わっております(笑)。

熟慮された マスタープランと ゾーニング

福井 では、次にキャンパスのマスタープラン、施設のゾーニングに関してお話しいただけますか。

山本 与えられた条件は、まず必要な法規上許される床面積。今回はそのほぼ最大限を使っています。かつ、キャンパスのエリアは高さが20mを超えてはならないという制限があり、周りは更に高さ制限が厳しい戸建て住宅の多い環境です。そこに音楽大学という複合的な施設を建てるということで、模型や概念図で、当初大きく3つの方向性をご提案させていただきました。その結果、地下に中庭を掘り込むことにより、地下1階まで光を取り入れ地上階的な環境を創ろうという「サンクンガーデン案」に落ち着きました。



▲ サンクンガーデン完成予想 CG



▲ サンクンガーデンに設置した仮設の作業台 (平成28年6月2日)



▲ エントランス付近から見た
南棟(左)・中央棟(正面)・東棟(右)
(平成28年6月2日)



▲ 南棟(左)・エントランスホール(中央)・東棟(右)完成予想CG

福井 それが2012年の8月のことでした。私のスマートフォンにも当時の3タイプの模型の写真が残っています。模型と共に“サンクンガーデンによってかたちづくる音楽の街”というコンセプトをご提案いただきました。

山本 周りの住環境に配慮して、建物自体は外側の街に対しては、若干閉じ目にする。それとは逆に、中庭側には開放的な造りにすることで、各棟には光をふんだんに入れ、中庭には若干音が漏れて聞こえるようにする。音大の雰囲気としては、そのくらいが良いのではないかとということでご提案させていただきました。さらに外周部には開放された歩道や緑、ベンチ等を整備することで街並みと共生しながら、結果的に住宅地における良好なキャンパス環境を創造するという目標は達成できたのではないかと、我々としては自負しています。

福井 2013年6月には、山本室長、安藤課長、そして伊藤営業部長と一緒に

に、ヨーロッパへ10泊12日の視察旅行にも出掛け、オーストリア、ハンガリー、フランス、チェコ、ドイツの5カ国、約60のホールを見て回りました。炎天下での強行軍で、足をつらせながら(笑)。各都市の私の知っている同窓生たちの紹介を通じ、ベルリン・フィルやウィーン楽友協会はもちろん、有名なホールは各々の責任者のご丁寧な解説付きではほぼ全部網羅することが出来ました。

山本 武蔵野の同窓生の素晴らしいネットワークを実感しました。視察はブラームスホールの可能性を探ることがメインテーマだったのですが、他にヨーロッパの街並、広場などの雰囲気・スケールというものを一緒に感じたいという思いがありました。この経験は、道路と建物間に余裕を持たせ、エントランス前には前庭的なスペースを設けて街角広場とする、そうした部分のコンセプトづくりに活かされました。

福井 私自身は、皆さんと何でも話し合えるような関係を構築することを、視察旅行の勝手なサブテーマにしておりました。それは達成され、現在に至っております…。そう思っているのは私だけかもしれませんが(笑)。続いて、キャンパスのゾーニングについてお願いします。

安藤 ゾーニングに関しては、例えば練習室の下が事務



小林靖樹 *Nobuki Kobayashi*

株式会社大林組
本社 設計本部 建築設計第二部 担当課長



小川 朗 *Akira Ogawa*

株式会社大林組
本社 設計本部 リニューアル設計部 担当課長

室だったら床の上下で遮音しないといけません、練習室同士など音が出る部屋が上下ならば、縦の遮音はもう少し経済的にできるだろう、と考えました。また賑わい空間である中庭の奥(北側)に3つのコンサートホールと3つのリハーサルホールを置いています。各棟ごとに、事務室、



▲ ヨーロッパ ホール視察
ウィーン・コンツェルトハウス(平成25年6月10日)

教室、レッスン室、ホールなどを明確に分離させ、諸室を効率的かつ最適な音響性能により集積させています。

福井 つまり機能別に分化した明快なゾーニングがなされているわけですね。次にキャンパス内での効率的な移動への配慮についてお願いします。

小林 サンクンガーデンの周囲を建物が囲う形式になりましたので、中庭を中心にグルッと廊下で囲うような動線を一番大事にしました。エントランスホールも3階にブリッジを設置することで途切れずに、四角い動線でキャンパス内が回遊できるよう計画されています。

福井 そもそも、当初の案はエントランスホールは造らず、サンクンガーデンが外部から直接見えるようにするというものでした。

小林 屋根だけの、吹きさらし的なご提案を差し上げていますね。

福井 それが学園の要望により、ガラスで透明性を確保しながら、中が窺えるようなエントランスにするプランに変更されました。

小林 ガラスが演出する、街に対する抜け感が生まれてとても良かったと思います。

旧キャンパスから 新キャンパスへ。 記憶の継承

福井 今回のプロジェクトでは、「伝

統と先進の和(ハーモニー)」をコンセプトに掲げています。日本で最初に音楽大学として認可された武蔵野の伝統と重ね合わせた、日本初の本格的な音楽ホールであるベートーヴェンホールの保存。一方それ以外を全く新しい建物にすることに、武蔵野の未来への飛躍を投影しています。また新築の中に「記憶の継承」をすることも重要視しました。したがって旧キャンパスのレガシーとも言うべき、様々なものが新キャンパスに受け継がれています。前述したベートーヴェンホールはその代表であり、桜の木やステンドグラス、各国から寄贈された大作曲家たちの胸像もそう。447室(初代モーツァルトホール)のクリスタルライトは新しいブラームスホールに使われますし、旧モーツァルトホールのパイプオルガンは新モーツァルトホールに移設されます。これらに関連して何かお話しただけですか。

安藤 学園と一番議論したのが、ベートーヴェンホールのロビー部分の保存です。最初の計画は全部壊して効率的なプランで建て替えるというものでしたが、学園側から、ホールの機能だけではなく象徴的な「顔」も残して欲しいとのご依頼を受けました。昔ながらの武蔵野の雰囲気を残したいという、OBを始めとする皆さんの強い思いがあると。これは法的にも、構造的にも簡単なことではな

かったですし、プランニング的にも非効率でしたが、学園側のご英断で残すこととなりました。

小林 ベートーヴェンホールの外壁を覆う穴開きブロックの格子状のデザインパターンは、新築のブラームスホールの北側と西面のガラス壁にも、相似のプロポーションで踏襲しています。

福井 桜の木の保存も、いろいろと大変だったそうですね。

安藤 「近隣の方も、毎年、桜のシーズンをすごく楽しみにしていられる。何とかこの一角の桜は残せないだろうか」と、理事長先生から強いご要望がありました。そこで1本でも多く残せるように調整をし、結果、4本の桜を残すような形になりました。施工現場も、木を傷めないように苦労したようです。

今井 そうですね。とにかく、枯らしてはいけない。と同時に、あれだけの桜ですから枝の葉張りもすごく、杭工事と外部足場の設置にも支障があったのですが、細心の注意を払って作業しています。

山本 今年4月にも見事に咲いて、みんながほっとしました(笑)。道を挟んだお宅の桜も同じように立派で、この四つ角に立つと、桜に囲まれる感じがします。価値ある桜を残せて良かったです。

福井 そのコーナーにも名前を付けなければいけませんね(笑)。



▲ キャンパス南西コーナーの満開の桜(平成28年4月6日)



▲ 上棟式：南棟に設置する最後の梁の前で(平成28年6月7日)

街並みに馴染む 外観デザイン—— 規則性と不規則性

福井 次は外観デザインに移りましょう。各棟でかなりの数のパターンをご提案いただきました。

山本 外観デザインの大きな話からさせていただきますと、棟ごとに機能が違うのに、それを同じようなデザインの建物にするというのは不自然です。かといって、統一性のないばらばらなものもよろしくない。窓の大きさや閉じ方などは当然機能ごとに変え、表装仕上げ材などの素材感でキャンパス全体の統一感を出しましょう、というのが大きな考え方です。

安藤 住宅地に立つ建物で、近隣の住民様にできるだけ圧迫感を与えないということが重要なポイントだと考え、大きな壁面がドーンと並んでいるというような、暴力的な使い方はしないほうがいいだろうというのが我々の基本的な共通認識でした。ですから模型を見ていただいても分かる通り、特に100メートル続く東面では、スリットを入れたり、材料を切り替えたり、窓のサイズを変えたりして、1個の大きな建物が立っているというよりも、3つくらいの中くらいの建物がつながっているように見えるようにして、周辺に馴染んでいくような造り方をしています。あと、今の時代に音楽大学のキャンパスを

丸ごと造り変えるわけですから、できるだけ先進的なデザインにしたいと考えました。

福井 南棟は最後まで議論が続きましたね。

安藤 南棟は正面に位置し、ここだけが5階建てで一番大きな建物となります。ベートーヴェンホールとも並んでおり、両者をどう調和させるかというのもテーマでしたが、学園側と議論を重ね、あまりベートーヴェンホールに引っ張られずに新しさを前面に出したほうがいいのではないかということになり、ランダムなテイストを取り入れた現代的なデザインにしようということで最終的に決着しました。また、南棟は教室が多く、できるだけ光を取り入れないといけないので、ガラス部分が多くなっています。一方、東棟はレッスン室が中心ですので、近隣に音が漏れないように、窓を小さくするなど開口を少なくしています。パッと見ただけで、その建物の機能が窺い知れる、非常に分かりやすいルールを基本とした外観デザインになっています。

山本 デザインの方法として、例えば音符だとか五線紙などをモチーフとした直喩的な手法もありますが、今回はそういったベタなやり方は避けました。それより、暗喩、メタファー的な手法、例えば南棟の外装のランダムなパターンですが、これは音の揺らぎをイメージし要素とし



今井幸弘 *Yukihiko Imai*

株式会社大林組 東京本店
武蔵野音楽大学江古田工事事務所 所長

で取り入れています。

安藤 音楽と建築、ジャンルは違っても、ものの本質を追求するという意味では相通じるものがあると我々は考えています。ですので、外装材料についても、金属や工業材料よりも、コンクリートの打ち放しやタイル(次号で詳述)という本物の素材を使いたいという思いがありました。ヨーロッパの視察等を通して、サンクンガーデンを囲う建物の表情をいかに豊かなものにするか、議論を重ねました。その結果、様々なデザイン、様々な材料を使った建物により、空間のバラエティを追求できるのではないかという結論に達しました。

福井 素材を大事にするということは、生の音を大切にクラシック音楽に通じるといえますね。また山本室長の「揺らぎ」の件。建築もそうでしょうが、音楽には安定・落ち着きを感じる規則性があります。フレーズ構造、和声、リズム、テンポ、整然とした形式…その規則性の中に生まれる、それを打ち破る不規則性こそが、楽曲内に驚きや快感を創出します。それをやるのかやらないのか、あるいは微妙にするのか刺激的にするのか。建築と音楽は、創造物が具体的な形として表れるか表れないかという点では全く異なりますが、「規則性と不規則性の追求」といった点では同じなのですね。(以下、次号につづく)



▲ 南東外観完成予想 CG

桜の季節、春の学園行事

大学、高校、幼稚園では、希望に満ちた新入生、元気いっぱいの園児たちを迎え、平成28年度の学事がスタートしました。

来年度より、いよいよ大学の教育・研究の場が江古田新キャンパスに統合されることに伴い、入間キャンパスでの学生生活には、今年度をもって終止符がうたれます。毎年、入間キャンパスの春を彩ってきた桜が今年も変わらず咲き誇る中、大学では今年度で最後となるバウハザールでの入学式が執り行われました①。その後、新入生歓迎会が開催され、先輩たちが揃ってセレモニー、歓迎演奏などで新1年生をあたたかく迎え、新入生は先生方、先輩、友人たちと和やかに親睦を深めて、有意義なひとときを過ごしました。

附属高校では5月上旬、若葉が映える加治丘陵の新緑に囲まれて、体育

祭が開催されました。玉入れ・イントロクイズ・障害物競争・綱引きなど多種多様な種目。3年生は、最後の体育祭とあって気合十分、見事優勝を勝ち取りました②。下旬には、2年生の修学旅行を実施。広島では、「被爆ピアノ」に触れ、演奏をする機会に恵まれました。プログラムはピアノ連弾と全員合唱、さらにはピアノを管理する調律師の方のご苦労話を聞き、平和への思いを深めることができました。京都・金沢では市内観光をはじめとして雅楽・能楽の鑑賞と体験を行うなど、日本伝統に触れる充実した旅程。また、大阪ではもちろんユニバーサル・スタジオ・ジャパンも訪れました③④。

一方、1・3年生は名栗川上流の「せせらぎキャンプ場」にて、校外学習（飯盒炊爨）を実施。火をおこすだけでも苦労しましたが、料理のいい香りに



包まれ皆満面の笑顔。創意工夫した食事をいただきました。

第一、第二、武蔵野の各幼稚園では、新緑の中で春の遠足を実施しました。豊かな自然の中で園児達は思いきり体を動かし、遊んだり青空の下でお弁当をいただいたりして、楽しい一日を過ごしました⑤。



イリヤ・イーティン ピアノ・リサイタル&同窓会主催新人演奏会

本学に客員教授として就任5年目となる、イリヤ・イーティン教授のピアノリサイタルが、去る5月23日、武蔵野音楽大学バウハザール（入間キャンパス）に於いて開催されました。イーティン教授は、モスクワ音楽院でL. ナウモフに師事した後、ウイ

リアム・カベル国際ピアノコンクール第2位、ロベール・カサドシュ国際ピアノコンクール第1位、リーズ国際ピアノコンクールにおいて優勝するなど、輝かしい経歴と幅広いレパートリーを誇っています。今回はドイツのロマン派の作品を取り上げ、プ

ログラムは前半にシューマン：アラベスク Op.18、クライスレリアーナ Op.16、後半にはシューベルト：ピアノ・ソナタ 第21番 変ロ長調 D.960。シューマンでは細かい音の綾を明瞭なタッチで響かせ、新たなシューマンの一面を聴かせてくれました。

また、シューベルトのソナタでは、晩年の澄んだ境地を、美しい音色と絶妙なハーモニーで叙情的に響かせ、多くの聴衆を魅了しました。

また平成27年度卒業生による「武蔵野音楽大学音楽学部新人演奏会」が4月18日、さらには平成27年度修了

生による「武蔵野音楽大学大学院修士課程新人演奏会」が5月9日に、ともにトッパンホールで開催され、それぞれが演奏家としての門出を、聴衆から温かく祝福されました。【写真：P3・P4】



武蔵野音楽学園 SNS 公式アカウント開設

本年4月より、武蔵野音楽学園の公式情報発信媒体として、Facebook・Twitter・LINE@の公式アカウントを開設しました。イベント情報、コンサート情報、講習会情報、入試情報な

どを発信します。

大学以外にも、附属高校、幼稚園、音楽教室などの情報も併せて紹介します。是非登録していただき、武蔵野音楽学園を身近に感じてください。



武蔵野音楽大学—武蔵野音楽学園 Facebook

入学希望者、在学生、卒業生、一般の方々への情報提供の場として、大学の最新情報やキャンパスライフ等をご紹介します。
www.facebook.com/musashinoondai



武蔵野音楽大学—武蔵野音楽学園 Twitter

主にウェブサイトでお知らせしているニュースやイベント情報をツイートします。
https://twitter.com/musaon_sns



武蔵野音楽大学 LINE@

イベント情報や入試情報を中心に発信します。
http://line.me/ty/p/%40musaon ID:@musaon



平成28年度 武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 オープンキャンパス・学校説明会

大学の教育内容、入学試験、キャンパスライフ、進路などをご説明、学校説明会ではワンポイントレッスンが受けられます。さらに大学のガイダンスでは、平成29年度よりスタートする江古田新キャンパスと新たなカリキュラムについてもご紹介いたします。※詳細はウェブサイトをご覧ください。

【お申込み】学校説明会：本学ウェブサイト内専用申し込みフォームをご利用ください。

【お問合せ】武蔵野音楽大学 入学センター TEL.04-2936-9844

日付	種別	開催地
7月9日㊤	学校説明会	岡山県岡山市★ 「ヤマハミュージックリテイリング岡山店 ミュージックサロン岡山シンフォニー」
7月10日㊤	学校説明会	香川県高松市「レクザムホール(香川県民ホール)」 愛知県名古屋「ヤマハミュージックリテイリング名古屋店」
8月28日㊤	オープン キャンパス	武蔵野音楽大学 入間キャンパス(事前申し込み不要)
10月30日㊤	学校説明会	青森県青森市★「ヤマハ特約楽器店(株)東京堂 青森店」
		新潟県新潟市★「ヤマハミュージックリテイリング新潟店」
		千葉県千葉市「ヤマハミュージックリテイリング千葉店 千葉センター」
11月13日㊤	学校説明会	鹿児島県鹿児島市「東郷音楽学院」

★大学のみ開催(高等学校の説明会は実施しません)

● 表紙の顔



リチャード・メイン 教授

リチャード・メイン教授は、この度ウィンドアンサンブルの指揮者として招聘され、7月に開催される本学のウィンドアンサンブル演奏会に向けて、学生達の指導にあっています。2012年秋以来、2度目の着任となります。

メイン教授は、アリゾナ州立大学でトロンボーンを専攻。音楽教育の学士と修士の学位を取得しました。さらにオハイオ州立大学にて博士号を取得し、同大学バンドの指揮者を務めました。その後、アリゾナ州にて高校教員として勤務、その間、アリゾナ・バンド&オーケストラ協会の会長を務めた他、テンペ・シンフォニー・オーケストラのトロンボーン奏者としても活躍しました。

現在は、米国コロラド州にあるノーザンコロラド大学音楽学部の教授、シンフォニックバンド、マーチングバンドのディレクターを務めており、指揮者としての多忙な活動の他、米国各地やカナダなどにおいて、審査員、クリニシャンとして幅広く活躍しています。

アメリカン・バンドマスターズ・アソシエーション(ABA)会員、ナショナル・バンド・アソシエーション(NBA)副会長。武蔵野音楽大学客員教授。

武蔵野音楽大学 ウィンドアンサンブル演奏会日程

2016年

7月11日(月) 18:30

アクロス福岡シンフォニーホール(福岡県)

7月13日(水) 18:30

アクティシティ浜松 大ホール(静岡県)

7月15日(金) 18:30

東京芸術劇場 コンサートホール(東京都)

※演奏会の詳細は本誌P14をご覧ください。



武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、寄附金に対する税額控除制度の恩典が与えられたことに鑑み、教育環境整備基金、福井直秋記念奨学基金並びに演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々よりご寄附をいただきました。ここにご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。

学校法人 武蔵野音楽学園

※ご芳名(五十音順)は、平成28年2月1日から5月20日までにご寄附いただいた方々です。それ以降の方々は、次号にて掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきました。何とぞご了承ください。

※本学ウェブサイトからも、ご寄附いただけるようになりました。クレジットカード決済により簡単にお手続きができます。是非ご利用ください。

【同窓生】 新井尚子様 石原多美様 加藤千恵子様 香山知美様 桜田敦子様 高市方子様 中村昌枝様 深谷陽子様 山ノ川真理子様 山本公子様 昭和57年入学同期会様

【在学生・同ご父母】 飯作盛志様 池ノ谷静一様 岩武慎司様 大吉哲夫様 小川明直様 片所寿雄様 川島 武様 貴志直文様 木村隆保様 龔 焱様 佐久間芳子様 須澤 隆様 須田 昇様 巽 保夫様 田中道夫様 土橋琢磨様 寺本眞一様 諸井康一様 山岸秀一様 山崎 彰様

【役員・教職員・一般・他】 阿久津三智子様 石井牧子様 石川 篤様 上村英郷様 大澤悠子様 大竹 亮様 奥田 操様 岸田讓様 小見山牧子様 佐野悦郎様 中田淳子様 野尻 米様 野村邦武様 端地公美子様 林 孝治様 原田知子様 平山百合子様 古谷輝子様 堀内康雄様 MCMICKING IAN 様 宮村裕子様 横地千鶴子様 吉岡成夫様 吉岡千賀子様

(他に匿名を希望される方12名)

栄冠おめでとう！(コンクール入賞者等)

●ハンガリーで最高位の芸術賞とされるコシュート賞受賞
カールマン・ベルケシュ(本学客員教授)

(順不同、敬称略、経歴は受賞時のもの)

●旭日小綬章受章 立野了子(昭和34年大学声楽専攻卒業、本専攻科修了)

●陸上自衛隊朝霞駐屯地司令感謝状を贈呈される 中谷孝哉(本学教授)

●日本フィルハーモニー交響楽団にコントラバス奏者として入団(平成27年12月)

鈴木優介(平成24年大学コントラバス専攻卒業)

●大阪交響楽団に首席コントラバス奏者として入団(平成28年3月) 大槻健太郎(平成15年大学コントラバス専攻卒業)

●セントラル愛知交響楽団にティンパニ・打楽器奏者として入団(平成28年4月)

片山陽平(平成26年大学ティンパニ専攻卒業)

●ウェストファリア文化事業助成協会 GWK - Förderpreis Musik 2016 (ドイツ) ソリスト部門 第2位入賞

工藤聖彦(平成23年大学マリンバ専攻卒業)

●平成28年度奏楽堂日本歌曲コンクール

第27回歌唱部門 第2位入賞 井出壮志朗(平成24年大学声楽専攻卒業、本大学院修了)

第23回作曲部門 中田喜直賞の部 優秀賞受賞 船橋登美子(平成5年大学ピアノ専攻卒業)

●宗次エンジェル基金/公益社団法人日本演奏連盟新進演奏家国内奨学金制度 平成28年度奨学生 土屋優子(平成22年大学声楽専攻卒業、本大学院修了)、●第1回ノアン フェスティバル ショパン イン ジャパン ピアノコンクール B3部門 第1位入賞、

国際アカデミー賞受賞 安齋 周(平成17年大学ピアノ専攻卒業、本大学院修了)、●第26回日本ピアノコンクール in かごしま ソロの部 自由曲の部門 優勝 野田侑希(平成27年大学ピアノ専攻卒業、本大学院1年)、●第26回山梨県管打楽器ソロコンテスト

大学生・一般部門 打楽器の部 第1位入賞、山梨県知事賞受賞 古家啓史(大学4年マリンバ専攻、附属高校卒業)、●第18回“万里の長城杯”国際音楽コンクール 打楽器部門 大学の部 第1位入賞、中国駐大阪総領事賞受賞 古家啓史(大学4年マリンバ専攻、附属高校卒業)、●第3回J.E.T.A.学生ソロコンクール テューバ・シニア部門 第1位入賞 吉澤翔太(大学2年テューバ専攻)、

●第6回日本パッサコンクール 全国大会 一般部門Aコース 金賞受賞 柳沢佐菜子(昭和45年短期大学声楽専攻卒業)、

●第1回K声楽コンクール 大学の部 第2位入賞 池田瑛香(平成26年大学声楽専攻卒業、本大学院2年)、●第1回21世紀

国際ピアノ・コンクール ソロ部門 第3位入賞 勝間田沙彩(大学3年ピアノ専攻)、●第18回“万里の長城杯”国際音楽コンクール 弦楽器部門 大学の部 第3位入賞 水地久留美(大学1年ヴァイオリン専攻)、●第4回中高生のためのSOLOコンクール 小太鼓

高校生の部 金賞受賞 原島愛日(附属高校3年打楽器専攻)、●第18回日本ジュニア管打楽器コンクール ソロ部門パーカッションの部 高校生コース 金賞受賞 原島愛日(附属高校2年打楽器専攻)

※上記の他多数。大学ウェブサイトをご覧ください。

平成28年度 同窓会全国総会のお知らせ

平成28年度武蔵野音楽大学同窓会全国総会は、来る8月5日(土)午後6時30分より、HOTEL 椿山荘 TOKYOにて開催されます。お誘い合わせの上、ぜひご来会ください。多数の皆様のご出席をお待ちしています。

平成 28 年度 7 月～9 月 演奏会のお知らせ

ケマル・ゲキチ ピアノ・リサイタル リストとバッハの夕べ

7 月 4 日(日) 18:00 バッハザール(入間) ¥1,000(全席自由)
 曲目 = リスト: 超絶技巧練習曲集より タベの調べ、雪あらし、鬼火、荒野の狩り、回想、前奏曲、イ短調、マゼッパ
 バッハ: 平均律クラヴィア曲集より 第1巻 嬰ハ短調、ロ長調、変ホ長調、ハ短調、ニ長調
 第2巻 ト短調、ホ短調
 (リストとバッハを交互に演奏いたします)

武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会

指揮 = リチャード・メイン
 7 月 11 日(日) 18:30 アクロス福岡シンフォニーホール(福岡県)
 7 月 13 日(火) 18:30 アクティシティ浜松 大ホール(静岡県)
 曲目 = J. ウィリアムズ: ニューイングランド讃歌 上記両日とも 一般 ¥1,500 / 小・中・高 ¥1,000(全席自由)
 L. パーンスタイン: キャンディー序曲 7 月 15 日(金) 18:30 東京芸術劇場 コンサートホール ¥1,500(全席指定)
 J. ジルマー: リフテン・ウェド
 八木澤教司: 太陽への讃歌 - 大地の鼓動(2016年改訂版・初演)、2016年度全日本吹奏楽コンクール課題曲より 他

武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会

指揮 = 北原幸男
 9 月 10 日(土) 14:00 リゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館 コンサートホール(新潟県)
 9 月 11 日(日) 15:00 駒ヶ根市文化会館(長野県)
 ピアノ独奏 = 本学学生オーディション合格者 上記両日とも 一般 ¥1,500 / 学生 ¥1,000(全席自由)
 馬場翔太郎(大学4年) [10日、11日] 9 月 16 日(金) 19:00 東京芸術劇場 コンサートホール ¥1,500(全席指定)
 市村ひかり(大学2年) [16日]
 曲目 = サン＝サーンス: 《サムソンとデリラ》より《パッカナル》、リスト: ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調、ブラームス: 交響曲 第4番 ホ短調 Op.98

武蔵野音楽大学附属高等学校音楽科 在校生と新卒業生によるコンサート

※お問合せ = 武蔵野音楽大学附属高等学校 TEL.04-2932-3063
 9 月 30 日(日) 18:30 王子ホール ¥2,000(全席自由)

お問合せ ● 武蔵野音楽大学演奏部 TEL.04-2932-3108

※やむを得ない事情により、出演者・曲目等を変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。
 ※チケットは武蔵野音楽大学ウェブサイト <http://www.musashino-music.ac.jp/> でもご予約ができます。

平成28年度 武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 夏期講習会のお知らせ

講習会名	実施期間	申込受付期間	会場
大学受験講習会	第1期 7月28日～7月31日	7月1日～7月14日	入間 キャンパス
	第2期 8月2日～8月5日	7月1日～7月19日	
	第3期 8月25日～8月28日	7月1日～7月29日	
高校音楽科受験講習会	第1期 7月28日～7月30日	7月1日～7月14日	
	第2期 8月25日～8月27日	7月1日～7月19日	
社会人のための 夏期研修講座*	7月31日～8月2日	7月1日～7月15日(消印)	
免許法認定講習 教員免許状更新講習とは 異なります。	7月25日～8月5日	7月1日～7月14日(消印)	

※社会人のための夏期研修講座は、下記の I～IV より各1講座を選択します。

- I ●中学生・高校生のためのピアノ指導法 ●声楽指導法(正しいベルカントの発声法について、ドイツ語歌唱法→ドイツ語の発音及び発声技術との結びつきについて、総合芸術オペラについて一歌手の目線からの役、舞台作りの過程) ●編曲法の実践(アンサンブルの編曲(吹奏楽を含む)に必要な基礎知識の習得とその応用(楽器法、スケッチの作り方等)) ●音楽科指導の実践(「歌唱」、「器楽」、「創作」、「鑑賞」の各授業の実践を通して考察する)
- II ●小学生のためのピアノ指導法 ●器楽合奏(打楽器の基本的奏法や指導法の研究を通してアンサンブルの楽しさを体験する) ●ソルフェージュ(①ソルフェージュの歴史と現在 ②実践 ③フォルマシオン・ミュージカル ④教材・学習法・教育法) ●教材研究(作品の解釈、演奏、指導に役立つよう、多角的な視点から様々な要素を結びつけ分析する)
- III ●合唱指導 ●カール・オルフの音楽教育 ●個人レッスン(ピアノ、声楽のいずれかを選択)
- IV ●パイプオルガンのたのしみ「没後100年のM.レーガー」 ●メンタルトレーニング入門 ●楽器学入門(ピアノの歴史)

※上記の他に開催される演奏会は、受講者全員を対象としています。

◎詳細は要項をご確認ください。

◎講習会要項の請求は、武蔵野音楽大学企画部広報課(TEL.04-2936-9737)

または大学ウェブサイトにてお申し込みください。(要項は無料、郵送料は学園が負担します)
 大学ウェブサイト:<http://www.musashino-music.ac.jp/>

平成29年度 入学試験要項請求について

武蔵野音楽大学の各入学試験要項は、入間キャンパスで取り扱っています。

郵送をご希望の方には無料でお送りいたしますので、本大学ウェブサイトの「資料請求フォーム」からご請求ください。お電話でのお申し込みは、氏名、住所、電話番号、および希望される附属高校、大学1年次、大学3年次編・転入、大学院、別科の別をお知らせください。

なお、夏期受験講習会を受講の方には、講習期間中に配付します。

【請求先】武蔵野音楽大学企画部広報課
 〒358-8521 埼玉県入間市中神728
 TEL.04-2936-9737
 大学ウェブサイト
<http://www.musashino-music.ac.jp/>

編集 後記

夢をかなえるには
 “長く追いつける”こと
 が大切だと説く原田マハ
 さん。座談会から窺い知ることが
 できるように、工事が佳境に入ってきた江古田新キャンパスも、長きにわたる周回準備の結実だと言えます。来春のオープンが、今から待ち遠しいところです(編)。

グランド・ピアノ

エラール作 1871年 パリ 奥行き247cm

エラールは、19世紀のパリで最高峰と謳われたピアノメーカーである。特に創始者セバスチャンが開発した「ダブル・エスケープメント・アクション」は、現代のピアノ・アクションの基本となる画期的な発明であった。

それまでのピアノは、鍵盤を元の位置まで戻さなければ次の打弦ができなかったが、彼の新しいアクションは、鍵盤を半戻しの状態で次の打弦ができる。その結果、素早い連打が可能となり、ピアノテクニクの幅が拡大した。この新しいピアノの価値をいち早く理解し、楽曲に活用したのがリストである。リストはエラールと出会うことで、偉大な音楽家としての道を歩む契機をつかんだといっても過言ではない。

1823年、父と共にウィーンからパリへと向かったリストは、パリ音楽院から外国人であるという理由だけで入学を拒否された。悲嘆に暮れていた12歳のリストに支援の手を差し伸べたのが、当時パリのピアノ製造業で名を馳せていたセバスチャン・エラールであった。エラールは多くの芸術家にリストを紹介し、この少年の名は次第にパリの楽壇に広がっていく。翌年、



リストはエラールの後援を受けロンドンで演奏会を行うが、ここで開発されたばかりの新アクションのピアノに触れ、その卓越した性能に感激したといわれる。

「ラ・カンパネラ」をはじめとする彼の作品の多くは、エラールの新しいアクションのピアノを前提に作曲された。リストは生涯を通じてエラール一家と親交を結んだ。天才音楽家と天才ピアノ職人との出会いこそが、その後のピアノ音楽の発展にとって大きな礎となったのである。

(武蔵野音楽大学楽器博物館所蔵)

大学機能の一時移転のお知らせ

武蔵野音楽大学は、現在進行中の「武蔵野音楽学園江古田新キャンパスプロジェクト」に伴う新築工事のために、平成29年3月まで大学の機能を入間キャンパスに移転しています。期間中は何かとご迷惑、ご不便をおかけいたしますが、ご理解いただきますようよろしくお願い申し上げます。

❖目次❖

- 一本の道 原田マハ ①
- 音楽の万華鏡 ⑤
- 論文は言葉による演奏 榎崎洋子
- 江古田新キャンパスプロジェクト REPORT ⑨ ⑥
- 特別座談会 第1部「江古田新キャンパス実現までの道のり」
- MUSASHINO NEWS ⑪
- ❖桜の季節、春の学園行事
- ❖イリヤ・イーティン ピアノ・リサイタル&同窓会主催新人演奏会
- ❖武蔵野音楽学園 SNS 公式アカウント開設
- ❖平成28年度 武蔵野音楽大学・附属高等学校
オープンキャンパス・学校説明会
- ❖武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々
- ❖栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）
- ❖平成28年度 同窓会全国総会のお知らせ
- ❖平成28年度 7月～9月 演奏会のお知らせ
- ❖平成28年度 武蔵野音楽大学・附属高等学校 夏期講習会のお知らせ
- ❖平成29年度 入学試験要項請求について

武蔵野音楽大学大学院
博士前期課程・博士後期課程

武蔵野音楽大学
武蔵野音楽大学別科
武蔵野音楽大学附属高等学校
武蔵野音楽大学第一幼稚園
武蔵野音楽大学第二幼稚園
武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園
附属音楽教室 江古田・入間・多摩

❖発行❖

学校法人 武蔵野音楽学園

入間キャンパス ●〒358-8521 埼玉県入間市中神728
TEL.04-2932-2111 (代表)

江古田キャンパス ●〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1
TEL.03-3992-1121 (代表)

バルナソス多摩 ●〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1
TEL.042-389-0711 (代表)

<http://www.musashino-music.ac.jp/>

2016年7月1日発行 通巻第118号